

## 商品市況展望

平成 24 年 8 月 5 日記

NY 株式 3 日 (NY 時間 16:29)

ダウ平均 13096.17 (+217.29 +1.69%)

S&P500 1390.99 (+25.99 +1.90%)

ナスダック 2967.90 (+58.13 +2.00%)

CME 日経平均先物 8685 (大証終比 : +145 +1.67%)

3 日の NY 市場、ダウ平均は 5 日ぶりに大幅反発。この日発表になった米雇用統計で非農業部門雇用者数 (NFP) が予想以上の増加を示したことから、市場全体がリスク選好の雰囲気が高まった。前日は ECB 理事会後のドラギ総裁の会見に失望感が強まったことで警戒感が高まったが、きょうはその警戒感が払拭された。ダウ平均は一時 250 ドル超上昇し、13000 ドル台を回復している。

商品市場も原油・金・穀物など、この日は米雇用統計の数字を受けて、軒並み上昇している。FOMC では大したものが出ず、ECB でも事前の威勢の良い発言の割には有効な対応策も出ずであったが、それによって下げていた分を急激に回復したわけだ。

ただし雇用統計が良くなれば (実際は良くもないわけだが)、9 月の FOMC でも QE3 が行われない可能性もあるわけで、どうもこのまま上放れるわけにもいかないような気はする。

来週はさしたる経済指標の発表はなく、ロンドンオリンピックの閉会を迎えるのみ。そして国内市場は、その後お盆の週に突入してゆく。

8 月は、大きな転換は無いのかもしれない。9 月 7 日に出る米雇用統計がどうなるかで、QE3 がどうなるかを見極めないと、本格的な上げ相場も下げ相場も、トレンドは発生しないのかもとは今考えているところだ。

## 〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

### 今週の金の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月30日	¥4,082	8	¥4,086	9
7月31日	¥4,080	-2	¥4,085	-1
8月1日	¥4,059	-21	¥4,065	-20
8月2日	¥4,044	-15	¥4,051	-14
8月3日	¥4,009	-35	¥4,013	-38

金相場は、先週号においては『FOMC 明けはもう一度下がると読んでおり、まだ逆張りの展開が続くだろうと見ている。押し目買い、吹き値売りでの対処がベターか』とコメントした。

今週の相場展開は、週末3日間の下げで一時はまた4,000円を割り込むものの、夜間取引ではNY金高を受けて50円高の終了。これは来週分になるので載っていないが、相変わらず下値も堅い状況となっている。

年初来の高値4,654円(2/27)→3,886円(6/4)まで768円下げた相場は、戻っても4,200円台には戻せず、結局は4,000円を挟んだもみ合いの継続となっているわけだ。

今のところ、4,000円以下は買っておけば取れる、4,100円以上は売っておけば取れる状況であるが、いつかはどちらかに大きく放れるわけであり、さてその方向とタイミングは何時か?というところである。

いずれはQE3が行われると、先取りして相場が高くなる可能性も皆無ではないと思うが、まだそれには多少早過ぎる気がするわけで、しばらくはまだもみ合いの可能性が大か。

いずれにせよ、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	¥4,506	8月29日	¥4,754	9月7日	¥3,808	12月30日	¥4,009
2012年10月	¥4,229	10月27日	¥4,652	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,009
2012年12月	¥4,037	12月26日	¥4,654	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,012
2013年2月	¥4,654	2月27日	¥4,654	2月27日	¥3,885	6月4日	¥4,015
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥4,342	4月27日	¥3,886	6月4日	¥4,014
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥4,175	7月4日	¥3,940	7月24日	¥4,013

○NY金日足

…削除済み…

週末8/3のNY市場は、前日比18.6ドル高の1606.0ドルでの終了。国内夜間取引では、4,071

円の高値まで出しており、週末の NY 金の上昇は織り込み済み。

チャートでは、まだ 1530 ドル～1640 ドルでのみ合いの範囲内であり、6 月の高値 1642.4 ドル (6/6) を抜けないと上放れにはならない。

どこかでそれを抜け、更に 1800 ドルオーバーまで買われる状況となれば、それこそ 2000 ドルを抜ける大相場の到来だろう。ただしこれには、やはり QE3 という材料が出なければ難しいのではかなろうか。

逆に下抜けも 1530 ドルを割り込んでゆかないと起こらないわけだが、今のところ 1,500 ドル台半ばは底堅い訳であり、これを割るためにはソブリンショックが再びクローズアップされて、投機資金の逆流が起きないと難しいだろう。

CFTC 発表の 7/31 現在のファンドのポジションは、…中略…

7/27 現在の ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、まだもみ合い継続の相場なのであろう。4,000 円以下を買っておけば取れる、4,100 円以上は売っておけば取れる相場であろうし、大きなトレンドが発生するのは、もうしばらく先の事と考える。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月30日	¥3,548	-11	¥3,547	-25
7月31日	¥3,577	29	¥3,586	39
8月1日	¥3,559	-18	¥3,569	-17
8月2日	¥3,538	-21	¥3,555	-14
8月3日	¥3,496	-42	¥3,512	-43

プラチナ相場は、先週号においては『また崩れに入った展開であり、金以上に売り圧力が強い相場であろう。8月はもう一度大きく崩れても不思議はないとみて、売り方針がベターであろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末に掛けてまた下落した相場が、一時3,500円割れ。ただしその後の夜間取引では、一気に3,600円台まで戻るなど、NYプラチナ高を受けて急騰しての終了である。

FOMC と ECB 理事会でがっかりして下げたものを、米雇用統計の発表から一気に切り返したわけだが、…中略…

結論から先にいえば、当方はまだ3,460円(7/24)で大底を打ったかどうかには、まだ懐疑的だ。QE3が行われての資金流入なら別だが、雇用統計での上昇には限界があるのではなかろうか。オリンピックが終われば、またそぞろ欧州債務危機が出てくるかもしれないし……。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	¥4,581	8月29日	¥4,726	9月7日	¥3,380	12月30日	¥3,496
2012年10月	¥3,918	10月27日	¥4,570	3月14日	¥3,375	12月30日	¥3,508
2012年12月	¥3,605	12月26日	¥4,582	3月14日	¥3,471	7月24日	¥3,520
2013年2月	¥4,535	2月27日	¥4,589	3月14日	¥3,468	7月24日	¥3,514
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥4,141	4月27日	¥3,466	7月24日	¥3,514
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥3,855	7月5日	¥3,460	7月24日	¥3,512

○東京プラチナー東京金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、3,512円(プラチナ) - 4,013円(金) = -501円。

7/30には-539円まで逆ザヤが拡大して、…中略…

結論として当方の相場観は、大底を打ったかどうかにはまだ懐疑的だ。リスクマネーの流入が加速しない限り、上げトレンドに変化するまでの力は無いだろう。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	9月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
7月30日	¥33,520	2000	¥29,480	1040
7月31日	¥35,000	1480	¥29,490	10
8月1日	¥34,150	-850	¥29,380	-110
8月2日	¥33,600	-550	¥29,050	-330
8月3日	¥32,000	-1600	¥28,840	-210

まずはコーンから…

先週号においては『シカゴ8ドル台、東京29,000円台からの上値も重くなって来たが、今の崩れきれない状況が続けば、もう一段高があるかも。相場は大きく乱高下する可能性が強く、突っ込み買い、吹き値売りでの対処がベターか』とコメントした。

今週の相場展開は、終値ベースでは**24,490円(7/31)**と**高値更新**。だが29,660円(7/20)は更新できず、そうこうするうちに週末に掛けては他商品安、高値でのレーショニングの傾向などを映し、28,000円台へと軟化。

もっとも夜間取引では再び29,000円台に戻し、まだ相場が死んでいない事を示唆して終わっている。

チャートでは底値から8,000円超上がった相場が、29,660円(7/20)→27,590円(7/24)まで**2,070円**の押しを入れ、今はその範囲で動いている場面。

つまりは2,000円幅のもみ合いであるが、…中略…

先週号でもコメントしたが、『**29,660円は、相対力指数の推移からしても一つの天井だろうが、それよりも高いかもしれない2番天井を記録してからでないか、まだ崩れには入りそうもないか**』というのが、今のところの基本的な考えだ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年9月	¥27,440	8月16日	¥35,660	8月1日	¥21,930	11月28日	¥32,000
2012年11月	¥24,400	10月17日	¥30,800	7月31日	¥21,060	6月4日	¥29,020
2013年1月	¥21,790	12月16日	¥30,100	7月31日	¥20,520	6月4日	¥29,000
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥29,960	8月1日	¥20,820	6月4日	¥28,920
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥29,790	8月1日	¥21,040	6月4日	¥28,910
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥29,660	7月20日	¥21,490	6月18日	¥28,840

先物は29,660円をトップに高値更新をしていないわけだが、…中略…

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末8/4のシカゴ市場は、9月限で前日比16セント高の810.00セント。12月限は11.75セ

ント高の 807.50 セントで終了している。

2013 年 5 月限まで、すべての限月が 8 ドル台に乗せているわけで、大きく下ザヤに居るのは 2013 年 9 月限以降だ。これはまだ 6 ドル台である。

だが 2013 年 9 月限以降というのは、来年取れるコーンの相場である。今、畑にあるコーンを収穫し、それから来春になって種を蒔き、再び生育させて収穫するコーンの相場である。そんなものを、今から予測できるはずがない。だから、今の相場には関係のない話だ。

東京市場は 2013 年 7 月限が先物だが、これはあくまでも今これから収穫するコーンを輸入するものだ。これに対応する限月は、シカゴだと 2013 年 5 月限という事になるか。よって東京市場のコーンは、すべて今の天候相場に関連する限月ということになる。

なお週末にシカゴで買われた要因は、生産高見通しの下方修正観測だ。もちろん雇用統計発表後に、株・原油・金などが急騰した事も影響している。

ちなみにインフォーマ社は、コーンの生産高を 124 億 9000 万 Bu→103 億 3800 万 Bu に大幅下方修正。先月に発表された米農務省報告の数字は、129 億 7000 万 Bu だったのだから（それでも 6 月の 147 億 9000 万 Bu からは大幅下方修正だった）、さて一体どうなってしまうのか？という予測である。

去年は 123 億 5800 万 Bu が実績だったわけだ、一部では 100 億 Bu さえも維持できないとの見方も台頭しており、来週末の米農務省報告で在庫率がどうなるかは注目だ。

CFTC 発表の 7/31 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、どこかで天井を打つのが相場であるが、まだ大天井を打っていない相場であろう。まずは 3 万円オーバーから、32,000 円に近づく水準まで駆け上がるのが先であろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月30日	¥60,100	800	¥49,300	1380
7月31日	¥61,300	1200	¥50,170	870
8月1日	¥60,000	-1300	¥50,390	220
8月2日	¥60,500	500	¥49,540	-850
8月3日	¥60,400	-100	¥49,170	-370

続いて一般大豆です…

先週号においては『今週の6,000円ほどの下落で、押し目完了となった可能性が高いだろう。相場は2番天井に向かって上昇すると見て、押し目買い方針に転換である』とコメントした。

今週の相場展開は、週前半は戻りの流れで5万円台回復までの上昇となったが、週末に掛けては多少の降雨予想や米国産大豆の輸出低下（価格高騰による需要低下＝レーショニング）、そして何よりもFOMCとECB理事会への失望から全商品が下げる流れを受け、49,000円割れまで一時下落。

しかしその後の夜間取引では急反騰し、先物は5万円台を回復である。

チャートでは41,750円(6/4)→52,190円(7/20)までの上げ幅は10,440円幅だったが、46,400円(7/25)まで一気に半値押しの6,000円近い下げを入れ、そこからまた上がり始めているのが今の相場である。

先週号で『ホット&ドライ懸念もまだ続いており、在庫率はもともと低い大豆に関しては、このまま崩れるのは想定しづらい。当方は相場観を、ここからは押し目買いに転換だ』としたわけであるが、今のところその作戦は成功。いずれ52,000円は天井ではなかった・・・という上昇を見せるのではあるまいか？

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	¥47,450	8月16日	¥61,960	7月23日	¥35,610	12月15日	¥60,400
2012年10月	¥44,250	10月17日	¥62,100	7月23日	¥36,410	12月15日	¥58,490
2012年12月	¥37,500	12月16日	¥63,950	7月23日	¥36,830	12月16日	¥56,940
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥60,000	7月23日	¥41,050	2月16日	¥52,910
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥56,480	7月23日	¥41,750	6月4日	¥51,000
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥52,190	7月20日	¥44,400	6月18日	¥49,170

コーンと違い、今週は一代高値更新の限月はなかったわけだが、…中略…

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末8/3のシカゴ市場は、8月限で前日比3.25セント高の1656.25セント。チャートに標示してある3番限の11月限は、12.25セント高の1628.75セントである。

なおシカゴも大きな逆ザヤ相場であるが、週末は遠い限月の上げ幅が大きかった。

このチャートでは、1691.50 セント (7/23) がトップの三尊天井形成の雰囲気があるが、15ドルを割れてゆくような下げが来ないと完成はせず。80 ポイントオーバーまでであった相対力指数は50 ポイントまで下げているものの、天井確認というよりは、指数もまだ調整を行なっていると見れば無難ではなかろうか。

なおインフォーマ社は、生産高見通しを前回の31億6100万Bu→27億9100万Buに大幅下方修正した。

前回の米農務省報告は生産高30億5000万Buであるが、今週の発表でどこまで下がるか？ 一部では27億Bu以下になるとの予測を出しているところもあり（今回の発表では、米農務省はそこまで引き下げることはないだろうが）、大豆はまだ今後降雨があれば多少の作柄改善の期待は残っているが、さて一体どうになってしまうのか？という状況ではある。

CFTC 発表の31在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、次回の米農務省報告で、一段の生産高下方修正は避けられないだろう。いずれ天井を打たぬ相場はないとはいえ、今はまだ売れぬ。新高値更新をしてから、売り場を探す相場であろう。

## [ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

### 今週のゴムの値動き

	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
7月30日	215.6	-4.7	232.4	-2.6
7月31日	213.7	-1.9	229.8	-2.6
8月1日	213.9	0.2	229.3	-0.5
8月2日	213.0	-0.9	231.0	1.7
8月3日	213.3	0.3	226.4	-4.6

先週号においては『戻しても240円～250円が限界だろう。再度、戻り売り方針で、更なる年初来安値の更新を狙う相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、戻りらしい戻りもなく軟調に推移した相場が、週末には220円台半ばまで下落。

かろうじて222.4円(7/24)は割り込んでいないが、240円台回復さえもままならぬ展開では、底入れとは言えず。200円を目指して更に下がってゆくか、少なくとも横ばいを続けるのが限界に見えるところだ。

もっとも週末の夜間取引では、全商品が反騰しているわけで、ゴムもそこそこ戻りが入るかもしれない。先週号でコメントしたとおり『戻しても240円～250円が限界だろう』と見ているので、そこまで戻ってくれるような良い売り場を提供してくれる事になるだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	340.7	2月24日	344.4	2月27日	<b>209.9</b>	8月3日	213.3
2012年9月	341.2	3月27日	341.9	3月27日	<b>215.4</b>	8月3日	216.8
2012年10月	307.2	4月24日	317.8	5月2日	<b>219.0</b>	8月3日	220.0
2012年11月	267.8	5月28日	274.0	5月30日	221.3	7月24日	222.6
2012年12月	233.3	6月26日	259.6	7月4日	222.4	7月24日	224.7
2013年1月	230.2	7月26日	<b>238.4</b>	7月30日	225.6	8月1日	226.4

当先のサヤは、8月限213.3円～1月限226.4円と13.1円の順ザヤ。順ザヤ幅は拡大していないが、期近3本はまたも一代安値の更新である。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、7/20現在で288トン減の10,269トン。7旬連続の減少である。

上海ゴム在庫は…中略…

上海ゴム価格は、22,000元台でのみみ合いである。

タイ政府による市場介入は、これといったものが見られず。8月以降も期限切れの渡し物が控えていると見られており、順ザヤは拡大傾向を強められると思われる。

結論として当方の相場観は、戻り売りからの脱却は困難だろう。240円まで戻れば御の字と思われ、戻りを着実に売って、新安値更新を狙う相場であろう。

## 〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

### 今週の原油の値動き

	7月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
7月30日	¥49,570	120	¥49,910	170
7月31日	¥49,400	-170	¥49,620	-290
	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
8月1日	¥49,710	-800	¥48,850	
8月2日	¥50,380	670	¥49,420	570
8月3日	¥50,340	-40	¥49,270	-150

まずは原油から…

先週号においては『NY 原油のファンドポジションを見た場合、明らかに投機資金が流入し始めているのは事実。押し目買いパターンを継続できるかどうか注目だ』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は FOMC での QE3 の発動がなかった事、ECB ではスペイン国債の買い入れは発表されたが具体策がなかった事などを嫌気し、8/2 には 87 ドル台前半まで下落。

また崩れのトレンドに入ってしまうかと思われたが、週末は一転して米雇用統計の内容を好感し、91 ドル台まで急騰して週を終えている。

東京原油は、おなじく 48,000 円台まで下落し、再び弱くなったと思われた。しかし週末の夜間取引では、5 万円台まで大きく戻して終了している。

週末 8/3 の NY 市場は、前日比 4.27 ドル高の急騰で、91.40 ドルでの終了。高値は 91.74 ドルまであり、7/19 に記録した戻り高値の 92.94 ドルまで接近中。東京市場 15 時半比では 1880 円高であり、51,000 円台まで上昇してもおかしくない急騰だ。

上値抵抗線は 92.94 ドルであり、93 ドルと来ればチャートはまた上に走りそうな姿だ。逆に 86 ドルを割るとまた悪くなる姿だが、さて来週の相場でどちらかに放れる事が出来るかどうかというところ。

なお週末のロンドンブレントは 108 ドル台、ドバイ原油は 104 ドル台まで上昇している。週末の上昇で、様変わりした格好だ。

先週号で『今週初めは大きく下がってしまったわけだが、チャートはまだ理想的な押し目買いパターンである。やはり 77 ドル台で NY 原油は底打ちしたのだろうと見ている』とコメントしたが、実際にそのような動きが出たのが週末の動向である。

7/31 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

63,550 円 (3/15) →44,190 円 (6/26) まで 19,360 円と 2 万円近く下げた相場が、51,100 円まで 6,910 円戻し、その後 3,000 円下げて、もみ合っているのが現在の相場だ。直近の高値を抜ける事が出来るかどうか焦点だ。

当方としては、先週号でコメントしたとおり『安値から1万円上げの54,000円台はあるだろうとの見方は変わらない』わけだ。ただし、このまま米雇用統計後の週末の上げだけで、完全にもみ合いを上放れしたとはまだ断言出来ないというのが、今の考え方だ。

そうなるかは、来週の動向次第だろう。ここであっさり51,100円をオーバーするか、それとも反落して再び5万円を中心としたもみ合いの継続を続けるかは、今のところ5分5分だろうと見ているゆえに。

なお一代の動きは以下のとおり。

#### 東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年7月	¥51,290	2月1日	¥63,810	3月15日	¥44,000	6月26日	<b>¥49,400</b>
2012年8月	¥59,290	3月1日	¥63,550	3月15日	¥44,230	6月22日	¥50,340
2012年9月	¥60,800	4月2日	¥61,900	4月4日	¥43,780	6月26日	¥50,140
2012年10月	¥57,430	5月1日	¥57,710	5月2日	¥44,310	6月26日	¥49,840
2012年11月	¥47,650	5月1日	¥51,130	7月20日	¥44,190	6月26日	¥49,600
2012年12月	¥47,580	7月2日	¥51,100	7月20日	¥46,240	7月3日	¥49,440
2013年1月	<b>¥48,890</b>	<b>8月1日</b>	<b>¥49,720</b>	<b>8月3日</b>	<b>¥48,420</b>	<b>8月1日</b>	¥49,270

結論として当方の相場観は、44,000円台で底が入っている相場であるというのは間違いなからうが、このまま本格的な上昇相場に移行してゆくかどうかには疑問あり。何かもう一つインパクトのある材料が必要であるとの見方であり、押し目買いたが逆張り戦法がベターであろうと見る。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

### 今週のガソリンの値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
7月30日	¥62,070	-90	¥59,660	110
7月31日	¥61,900	-170	¥59,330	-330
8月1日	¥61,840	-80	¥58,740	-590
8月2日	¥62,710	870	¥59,580	840
8月3日	¥62,580	-130	¥59,480	-100

続いてガソリンです…先週号においては『週明けから急落を演じてしまった相場だが、まだ底抜けしたわけではない。押し目買いの継続で、一段高を狙う相場はまだ死んでないと見る』とコメントした。

今週の相場展開は、59,000円を中心としたもみ合いの中で、週末までは若干弱そうにも見えたわけだが、その後の夜間取引で急騰。一気に6万円台後半まで駆け上がっている。

77,810円(3/15)→53,460円(6/26)まで24,350円下げた相場は、61,060円(7/20)まで7,600円の反騰。おおよそ3分の1戻しを演じた後、また大きな押し目を付けた後に、もみ合いに入っただけだった。

しかし先週号で『まだ下抜けてしまったわけではない。57,000円台で下げ止まったのであれば、まだ更なる上昇の目は残っていると見ており、それはひとまず24,000円下げの半値戻し=65,000円ラインと考えているのだが、その方向に相場が向かうかどうかは来週の動き次第だろう』とコメントしたわけだが、週末の夜間取引でそれが出た格好だ。

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年9月	¥75,030	2月27日	¥77,810	3月15日	¥56,410	6月22日	¥62,580
2012年10月	¥74,980	3月26日	¥75,430	3月28日	¥54,850	6月26日	¥61,630
2012年11月	¥69,280	4月26日	¥69,690	4月27日	¥54,040	6月26日	¥60,540
2012年12月	¥61,470	5月28日	¥61,930	5月30日	¥53,530	6月26日	¥59,880
2013年1月	¥54,070	6月26日	¥61,060	7月20日	¥53,460	6月26日	¥59,520
2013年2月	¥58,670	7月26日	¥60,220	7月30日	¥58,160	7月27日	¥59,480

週末の夜間取引では、2月限は60,850円の高値まで記録しており、1月限だと60,870円を記録している。週明け夜間取引次第だが、これも高値更新を果たせるならば、また強い相場が始まると考えている。

8/3現在の業者間転売価格は、…中略…

7/28現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、底入れ→上昇トレンドはまだ死んでいない。しかし国内ガソリン需給はさほど良いとは思われないため、急騰した場面は利食いで、押し目買いに徹するのがベターであろう。

○東京灯油日足

…削除済み…

### 今週の灯油の値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
7月30日	¥61,500	60	¥63,110	250
7月31日	¥61,240	-260	¥62,820	-290
8月1日	¥60,590	-650	¥62,190	-630
8月2日	¥61,320	730	¥62,990	800
8月3日	¥61,120	-200	¥62,780	-210

最後に灯油です…先週号においては『週明けから思わぬ急落を喰らった相場であるが、押し目買いのトレンドはまだ変わっていないだろう。8月からの反騰攻勢に期待したい』とコメントした。

今週の相場展開は、62,000円台でのみみ合い。しかしその後の夜間取引では、NY原油の急騰を受けて64,000円台まで一気に値を戻しており、週明けは7/20の戻り高値である64,500円にチャレンジして来そうだ。

75,730円(3/15)→57,040円(6/25)まで18,690円下げた相場は、64,500円(7/20)まで7,460円戻して、4,000円下げ、また3,000円上がってからもみ合いに入っていた。

それが夜間取引では64,190円の高値まで戻しており、…中略…

先週号で『週末までの動きを見れば、まだ死んではいない相場だと見ているのだが、さて?』としたが、時間をかけてやっとそれが当たった格好である。

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年9月	¥73,400	2月27日	¥75,730	3月15日	¥54,950	6月29日	¥61,120
2012年10月	¥74,590	3月26日	¥75,370	3月28日	¥55,650	6月29日	¥62,140
2012年11月	¥70,800	4月26日	¥71,400	4月27日	¥56,350	6月26日	¥62,830
2012年12月	¥64,110	5月28日	¥64,590	7月20日	¥56,800	6月26日	¥63,150
2013年1月	¥57,800	6月26日	¥64,500	7月20日	¥57,080	6月29日	¥63,100
2013年2月	¥61,810	7月26日	<b>¥63,420</b>	<b>7月30日</b>	¥61,350	7月26日	¥62,780

週末の夜間取引では、2月限で64,190円の高値と一代高値を更新。また1月限も64,510円と一代高値を更新しているわけで、実質的にはすでに7/20の高値は突破しているわけだ。1月限が上ザヤにいるのは、灯油の習性からは自然なことであり、次の3月限が大幅に下ザヤで始まるだろう事も、きちんと理解しておかねばならない。

8/37 現在の業者間転売価格は、…中略…

7/28 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、1月限・2月限の押し目買いは変わらないだろう。売るのは3月限が出てからの話であろう。

## 〔為替〕

### ○ドル/円相場日足

…削除済み…

8/1 には **77.91 円**まで円高が進行し、**77.94 円 (7/23)** の円高を更新した。だが何とか 6/1 の **77.65 円**は割り込まず、2月の **76.02 円**をターゲットにする展開にもなっていない。

円高となったのは、FOMC と ECB が不発に終わったわけだが、メリマンの言う『77 円はおそらく円高のピークだろう。84.17 円 (3/15) を抜けば、円安が 90 円まで進むだろう…』という相場には、まだほど遠い情勢である。…中略…

### ○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

**94.10 円 (7/24)** までの円高/ユーロ安が進んだ市場は、ECB 理事長の発言を受けて一時は反転したが、出た政策に具体策が無いと再び円高に。

いずれユーロは無くなる…というのが元々の当方の主張だが、…中略…

来週も更にユーロ高が進み、100 円を突破するようならトレンドに変化が出るのかもしれないが、何となくオリンピックが終わるまでの一時的な戻りのような気がするのだが・・・さて？

### ○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

週末のユーロ/ドルは、1.238 付近まで急伸。

前週に **ECB 総裁が断固とした措置を取ると明言した事から、一転してドル安/ユーロ高となり、その後実際には具体策が出なかったと再びユーロ安になった分を、週末は戻したわけだ。**

1.275 を超えればトレンド変化であるが、さてそこまでユーロが戻せるものなのかどうか？ QE3 での米国の大幅な金融緩和がなければ、ドル高/ユーロ安はそのうちまた進むのではないか？という見方も出来るわけで、今のところまだ何とも言えないのが実際のところか。

---

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス [info@higenaka.com](mailto:info@higenaka.com)